

Tokyo Kasei Press

学校法人渡辺学園 広報誌 なでしこ

VOL.
95
2023.1

07 GOOD 授業賞新設記念 スペシャル対談

14 活躍する卒業生

16 SDGs のゆくえ

04 02

データサイエンス基礎開講
年頭所感



令和五年 年頭所感

「意識改革」達成に全力

学校法人渡辺学園理事長 菅谷 定彦

バブル崩壊後の日本経済は本年度「失われた32年」に入る。その重大な構造要因、少子高齢化、労働人口減少にも歯止めがかからない。加えて発生3年目に入るコロナ禍、間もなく2年目に入り、わが国の物価高の要因になっているロシアの不法なウクライナ侵略戦争も収束のメドが立たない。近年の渡辺学園をとり巻く環境は一段と厳しさを増している。

私が理事長に就任した7年前、わが国が年間平均経済成長1%の長期低迷から脱出するのは容易ではなく、大学入学年の18歳人口が近年のピーク、1992年の205万人から2018年の118万人と半数近くになりその後も減り

続けるのは明白であった。創学40周年が迫り「女性の自主自律」の理念を实践、評価を高めてきた渡辺学園が劣悪な環境の中で勝ち残るには、歴史と伝統の上に「あぐら」をかいていような体質を抜本的に変えるしかないと考えた。

それが大学学長選挙改革、附属中高の大幅赤字削減でスタートした「財政」および「教育」

「意識」「構造」の4大改革である。改革7年目の現在で、4段階評価をすると「財政」が高の4次にわたる再構築の遂行で年間赤字がピークの3億9千万円（2019年度）から2021年度に1億7千万円に減少、大黒柱の

大学が環境教育、英語コミュニケーション両学科、短期大学で続く入学定員割れをかかえながら10億円強の黒字で学園の黒字6億円に貢献した。2021年度は私立大学で集計可能な560校中、34.4%が赤字（日本私立学校振興・共済事業団調べ）の中、大学は健闘しており、「財政」は「良」プラス努力要。

「教育」は特に2021年春スタートした井上学長体制下2022年4月、栄養学部、2023年4月には児童学部が、共に家政学部から分離独立してスタート。両学部とも国家資格取得、就職率とも高く、強いセクションを一段と強化する改革は評価出来るが、弱い分野の処置がこれからの「良」。

最も新しい「構造改革」の重点は、全部署での予算案の緻密な策定と、丁寧な実行にある。初年度の2021年度で10%強、5億4千万円のカットを提案。2022年度も継続しているが、私の推定では約3%強の削減にとどまっている。ただこの期間はコロナ感染拡大、ウクライナ戦争で予算の策定、実行が読みにくい事情を考慮、評価を見送りとした。

問題は「不可」をつけざるを得ない「意識改革」である。セクハラを含むハラスメントをなくす、教職員間のコミュニケーションを徹底する、社会で活躍する学生に不可欠なあいさつの習慣を教え込むを3本柱としているが、いずれも達成にはほど遠い。4つの改革の中で、人間として最も基本的な要素である意識改革の前進を、2023年の最重要課題として取り組んでいきたい。

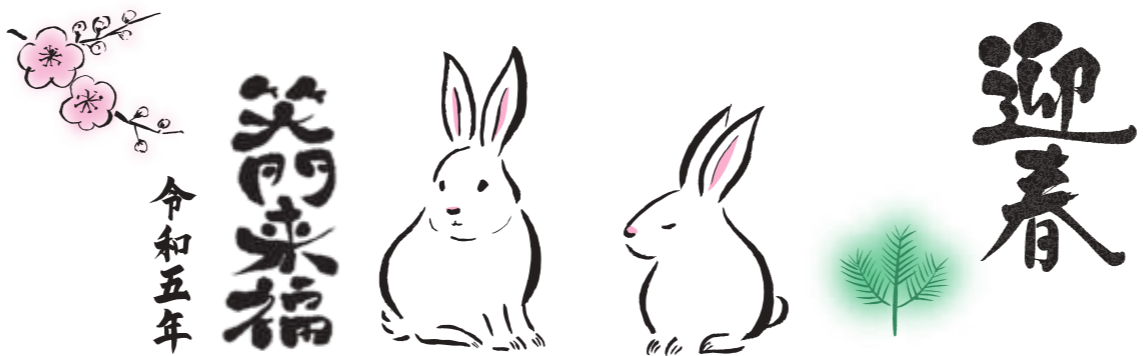


現代において自主自律であること

東京家政大学・東京家政大学短期大学部学長 井上 俊哉

和洋裁縫伝習所が創設された1881（明治14）年は、10年後の国会開設が約束された年でもあります（国会開設の詔）。約束に従って1890年に初めての国政選挙が行われましたが、女性には参政権がありませんでした。女性の地位が低く、職業に就くことも難しかった時代において、和洋裁縫伝習所が、裁縫を身につけ教員として自活する力を養う教育を行ったことは、たいへん画期的なことでした。東京家政大学の建学の精神、自主自律はここに発するのです。

和洋裁縫伝習所が創設された1881（明治14）年は、10年後の国会開設が約束された年でもあります（国会開設の詔）。約束に従って1890年に初めての国政選挙が行われましたが、女性には参政権がありませんでした。女性の地位が低く、職業に就くことも難しかった時代において、和洋裁縫伝習所が、裁縫を身につけ教員として自活する力を養う教育を行ったことは、たいへん画期的なことでした。東京家政大学の建学の精神、自主自律はここに発するのです。



令和五年

めでたき福

諸外国と比べ、とくに経済、政治の面で日本の女性の地位の低さが指摘されています。もちろん制約は性差だけの問題ではありません。制約はあらゆるところに潜んでいるはずです。理不尽な制約を破り自主自律であるためには、社会の現状を客観的に捉え、制約に向き合うことが不可欠です。そして、制約を超えていくには、「ひとりではがんばる」というより、他者と目標を共有し社会に働き掛けることが必要です。自分だけでなく、家族、友人、学校、職場、地域、そして世界、すべての人がともに幸せでいられる社会を創るという発想は、家政学の思想とも合致するものです。多様な人々が互いに自他を尊重して生きられる時代が来てはじめて究極的な自主自律が成立するでしょう。もちろんこれは理想であり、現実には様々な制約が存在し続けるでしょう。それでも、究極的な自主自律に向けて歩み続けることこそが自主自律の実践にほかならない、と私は思います。身につけた専門知識を強みとして活かし、すべての人が幸せに生きられる世界に近づく努力を続けられる人、自主自律の道を歩み続ける人を育てる大学、東京家政大学がそのような大学であるために、今年も働きたいと思っています。

東京家政大学 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(MDACK)」スタート

本年度新規開講！ データサイエンス基礎

数字の羅列が問題解決になるまで

令和4年度より、学部・学科を問わず分野横断的にデータサイエンスに関する教養を身につける目的で東京家政大学「数字・データサイエンス・AI教育プログラム (MDACK: Mathematics, Data science, AI Certificate program in Kasei)」を新たに開設しました。その教育プログラムの基幹科目として「データサイエンス基礎」が新規開講され、単位取得者にはプログラム修了証が授与されます。この取り組みは、データサイエンスの視点を活用し、社会における様々な事象を適切に読み解く力を身に付け、さらには“答えのない課題”に対して最善な解につながる思考力や解決力を養うことを目指します。

☑ 全学部・全学科共通の1年生対象で、初心者でも安心して取り組める内容

☑ 板橋・狭山の両キャンパスの学生が履修可能なフル・オンデマンド形式メディア授業

☑ 夏期集中期間に開講されるため、本科目の学修に専念することができるよう配慮

今回の取材に協力してもらった担当教員



天野 美穂子 「データサイエンス基礎」担当教員、家政学部児童教育学科 講師
授業計画の組み立てを担い、科目の授業運営を円滑に進めるチーフディレクター的な存在。



小池 新 「データサイエンス基礎」担当教員、人文学部英語コミュニケーション学科 教授
本学コンピュータシステム管理センター所長を務め、教学系DX(デジタルトランスフォーメーション)推進の中心人物として関わる本科目のスーパーバイザー的な存在。



新関 隆 「データサイエンス基礎」担当教員、家政学部環境教育学科 学科長/教授
共通教育科目「情報活用」を長年にわたって担当し、情報関連科目部会長を務めるなど、本学における情報教育やデータ活用に関連する科目を牽引するシニアエキスパート的な存在。



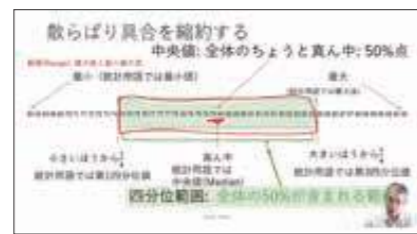
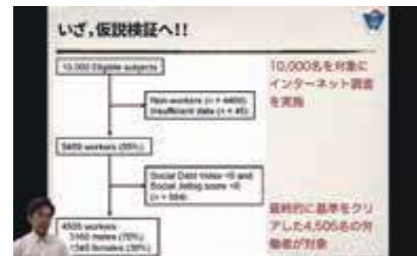
大西 淳之 全学データサイエンス教育推進委員会 委員長、共通教育推進部長、家政学部栄養学科 教授
共通教育科目として開講した本科目の構想段階から開講、次年度以降の展開など、全体指揮を執るプロデューサー的な存在。



初回講義にエクセル操作は出てこない

「データサイエンス基礎」の講義では、予想に反して最初からパソコンを操作するのではなく、わたしたちの生活にデータがどう関わっているのかを考えるところから始まります。その主なところは、データサイエンスとは、特定の学問領域ではない、すべての分野に共通する知識体系であることが解説されます。本格的な講義に入る前に、この概念が学生へ入念に説かれます。エクセルなどでのデータ分析のスキルを身に付ける前に、それを学ぶ意義を徹底的に理解してから実践に入るように授業が組み立てられています。

ここで説かれている概念を簡単に紹介すると「データ自体は数字の羅列であって特に意味を持たないが、何かに着目してデータを加工することで数字の羅列が持つ意味を思考できるようになる。そしてその思考が知識へと発展し、課題を解決する観智になる」といったこと。例えば、コンビニの売り上げデータ自体に意味はないが、時間帯や地域性などに着目してデータを加工すると売り上げ傾向が現れてくる、そしてその傾向にマッチした販売戦略を立てることで売り上げが増えれば、会社の問題解



本学ホームページの「データサイエンス基礎」掲載ページを見ると「東京家政大学『数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度』科目」との冠が掲げられています。どちらかと言えば文系脳の筆者は、そのかどどしくクールな印象の言葉の羅列に少しうなだれ、ブラウザーの「X」ボタンを即クリックしたくなったのが正直なところ。しかし、データサイエンスという言葉の印象とは違って、そのホームページは黄色やグリーンで柔らかな雰囲気を感じさせているのです。このギャップは一体？女子への歩み寄りか？などと、うがった見方をしてしまった。もしかしたら思い始めました。その淡い期待だけを頼りに、授業動画を視聴したり、担当教員に話を聞いたり、取材を進めていくうちに覚えてきたのは、「データサイエンス基礎」という科目の人間味ある素顔。

どんな学生が履修したのか？ その動機は？

「データサイエンス基礎」は令和7(2025)年度から板橋・狭山両キャンパスでの全学必修化を目指しています。それまでの準備期間中はこの科目を板橋共通教育科目の「選択」科目として配置し、狭山キャンパスからは他学科履修科目とし

て履修できます。本学初のキャンパス横断科目であること、しかも「選択」科目として履修することから、多くの履修希望者数を想定せず1クラス分のサイズ感で計画準備をしていたとのこと。ところが、例年の履修登録期間より遅れての5月に板橋・狭山両キャンパス間で「データサイエンス基礎」の募集を始めたところ、不安をよそに想定外の4倍近くの応募者数(ほぼすべての学科から)となったため、抽選により実際には両キャンパスで79名の学生が履修しました。その動機は、例えば教育福祉学科の学生であれば「この先、アンケート集計や社会調査などを学ぶので、その前に基礎を身につけておきたかった」というように、自分が専門にしている学科で将来的に必要な知識だから、というのがアンケート結果を見ると目立ちました。どんな専門分野を学んでいるかに関わらず、将来がならず役立つ身につけておきたい知識やスキルとして、学生からの期待値も高い授業であることがうかがえます。

この「データサイエンス基礎」は、科目主任である天野美穂子先生(家政学部・児童教育学科)を中心に小池新先生(人文学部・英語コミュニケーション学科)と新関隆先生(家政学部・環境教育学科)の3人で講義内容をデザインし、授業の実施を担当しています。では、「データサイエンス基礎」は実際にどんな授業なのか？エクセルに数式をがんがん入れまくる、暗い画面にプログラムをタイプしまくるんじゃない？という恐怖にも似た内容がこの授業に対する勝手な予想でしたが、実際の授業を視聴すると良い意味で裏切られたのです。

決につながるということが紹介されています。

この概念は学生の卒業後の将来にも役立つ。ですが、担当教員の天野先生によれば、今の生活の中でもすでに活かせる内容だと言います。「ネットニュースなどで調査結果から書かれた記事がありますが、その内容をそのまま読み取って受け止める学生が多くなります。その調査は誰がどんな目的でやったのか、実は一部のデータだけを切り取って誇張していないだろうか、そういったこ

学修・教育開発センター (CRED)

令和4年度

GOOD 授業賞新設

学修・教育開発センター (CRED: Center for Research and Educational Development) は、令和4年度に以下の3つを主な目的として「GOOD 授業賞」を新設しました。

令和4年7月28日の選考委員会にて、前年度の授業評価アンケートを元に、教員による授業の工夫点や学生のコメントなど総合的に審査し、表彰授業を選考し以下の8授業が選ばれました。令和4年10月21日には表彰式を執り行い、表彰授業の担当教員には井上俊哉学長より表彰状とトロフィーが授与されました。



(左)井上学長 (右)川合沙弥香先生



(左)井上学長 (右)松江なるえ先生



<目的>

- (1) 授業の学生満足度が高く、教育的に質の高い授業を選出し、担当教員の栄誉を称える。
- (2) 表彰制度により教育内容や教育方法の改善に向けた教員のモチベーションを高める。
- (3) 受賞者の授業運営に関する経験値や知見等を共有し、全学的に組織的な教育レベルの底上げを図る。

令和4年度 GOOD 授業賞 表彰授業

学部・学科・科、科目種別	授業名	担当教員
家政学部児童学科	保育内容演習 (環境)	佐藤 康富
家政学部児童教育学科	理科教育法	関根 正弘
人文学部心理カウンセリング学科	キャップストーン	岡島 義/齊藤 和貴
健康科学部看護学科	ヘルスアセスメントの技術	松江 なるえ/柳田 真季子/酒井 博子 谷岸 悦子/藤森 京子
子ども学部子ども支援学科	社会福祉概論	岩崎 雅美
短期大学部保育科	保育内容の理解と方法 C (造形)	川合 沙弥香
教職課程科目	教職実践演習 (幼)	荒井 庸子
共通教育科目	人間と学び E (しなやかな心とからだ)	花輪 充

社会で働く前に知りたかった：が満載

とを考えられるようになります」そのような視点があれば、その記事が正しいのか偏っているのか、情報をきちんと選別することができます。毎日の生活、ひいては人生を歩む上でのインフラ的な、持っておくべき概念とも言えるでしょう。

実際に講義動画を何本か視聴していくと、筆者自身が同時期に偶然にもデータやその分析を業務で扱っていた時期ということもあって、そうそうこれは知りたかったことなんだよね...という内容が多く出てきました。例えば、中央値と平均値と最頻値、母集団と標本など...(そもそも中学校で習ったでしょ?)とのツッコミは聞こえないふりします)、改めてそれらの定義や意味合いが理解できると、自分が業務で扱っている分析データの見え方が違ってくるのでは。

どんな分野であっても、データを分析して何かを読み解き、そこから課題を見出し、解決策を生み出す必要性に直面することが多くあります。そのために何よりも大事なのは、正確にデータ分析とその読解ができること。どのようにデータを加工すれば自分が必要とする分析に辿り着けるのか、そこにどんな意味が潜んでいるのか、どこに着眼すべきなのか、何に留意すべきなのか。より高度な専門分野を学ぶ前に、そして社会人になる一歩手前の年代で、これらをデータサイエンスという体系だった枠組みで身につけられる機会は非常に有益である

東京家政大学の学生に合ったデータサイエンス

ひとつのツールが何かの入り口となり世界を広げてくれるという点で、データサイエンスは語学と似たようなものと捉えることができますが、これらに共通するネガティブな懸念はアレルギー、つまり、苦手/避けて通りたい/絶対無理という拒否反応...。その点をこの科目のプログラマー的存在である大西先生は次のように捉えています。

「データサイエンスという名前だけで思考停止になってしまう学生もいるんですよね。システムエンジニアとかプログラマーとかに結び付けて記憶されてしまうのかもしれない。だからこそ、幅広く汎用性がある教育内容だということを伝えたくて、学生が専攻している専門分野との関連性も検討しています」

そして、この「データサイエンス基礎」は天野先生、小池先生、新聞先生(家政学部環境教育学科)の3人の先生がさまざまな単元を担当しあって、毎回オリジナルの講義内容を配信していることも大きな特徴と言えます。また本授業の初回と最終回の動画は今年度より本学内に設置された「メディア教材スタジオ」にて宮本真帆先生(家政学部造形表現学科)のディレクションのもと高品質な仕上がりとなっています。加えて動画講義のなかでは、産業界や研究面での具体的な事例について本学の大井龍先生(家政学部服飾美術学科)と岡島義先生(人文学部心理カウンセリング学科)の解説場面もあり、「データサイエンス」と学科の専門領域との繋がりを意識できるよう構成されています。担当教員である小池先生によれば

「学外のコンテンツを使用して講義を配信し、自動採点で完了というプログラムも他大にはありますが、本学では教員が学生としっかりと向き合っ

ています。担当教員である小池先生によれば「学外のコンテンツを使用して講義を配信し、自動採点で完了というプログラムも他大にはありますが、本学では教員が学生としっかりと向き合っ



宮本真帆先生



大井龍先生



岡島義先生

「人の暮らしや生き方に寄り添い、その幸せをサポートするために多様な専門分野を学ぶ東京家政大学で今年度に開講された「データサイエンス基礎」科目名からクールなイメージを持たれがちですが、データの裏側には毎日を生きる人々の感情や体温があり、健やかで心豊かな人々の暮らしのために、データ分析から課題解決を考え出すスキルをこの科目では養います。その名称から想起されるイメージとは裏腹に、あたたかく柔らかに未来を照らす光が射しています。(川島 直子)

「データサイエンスという名前だけで思考停止になってしまう学生もいるんですよね。システムエンジニアとかプログラマーとかに結び付けて記憶されてしまうのかもしれない。だからこそ、幅広く汎用性がある教育内容だということを伝えたくて、学生が専攻している専門分野との関連性も検討しています」

そして、この「データサイエンス基礎」は天野先生、小池先生、新聞先生(家政学部環境教育学科)の3人の先生がさまざまな単元を担当しあって、毎回オリジナルの講義内容を配信していることも大きな特徴と言えます。また本授業の初回と最終回の動画は今年度より本学内に設置された「メディア教材スタジオ」にて宮本真帆先生(家政学部造形表現学科)のディレクションのもと高品質な仕上がりとなっています。加えて動画講義のなかでは、産業界や研究面での具体的な事例について本学の大井龍先生(家政学部服飾美術学科)と岡島義先生(人文学部心理カウンセリング学科)の解説場面もあり、「データサイエンス」と学科の専門領域との繋がりを意識できるよう構成されています。担当教員である小池先生によれば

「データサイエンスという名前だけで思考停止になってしまう学生もいるんですよね。システムエンジニアとかプログラマーとかに結び付けて記憶されてしまうのかもしれない。だからこそ、幅広く汎用性がある教育内容だということを伝えたくて、学生が専攻している専門分野との関連性も検討しています」

そして、この「データサイエンス基礎」は天野先生、小池先生、新聞先生(家政学部環境教育学科)の3人の先生がさまざまな単元を担当しあって、毎回オリジナルの講義内容を配信していることも大きな特徴と言えます。また本授業の初回と最終回の動画は今年度より本学内に設置された「メディア教材スタジオ」にて宮本真帆先生(家政学部造形表現学科)のディレクションのもと高品質な仕上がりとなっています。加えて動画講義のなかでは、産業界や研究面での具体的な事例について本学の大井龍先生(家政学部服飾美術学科)と岡島義先生(人文学部心理カウンセリング学科)の解説場面もあり、「データサイエンス」と学科の専門領域との繋がりを意識できるよう構成されています。担当教員である小池先生によれば

GOOD授業賞新設記念

スペシャル対談

学長

学修・教育開発センター所長

井上 俊哉

兼古 昭彦

本号では「GOOD授業賞」新設記念として、制度設立の構想と検討を重ねてきた井上学長と兼古学修・教育開発センター（以下、CRED（クレッド））所長の対談をお届けします。

CREDはCenter for Research and Educational Developmentの略で、学生の学修の充実・向上に資するべく、全学の教育活動の改善に向けて組織的かつ継続的に取り組むことを目的としている部門です。設立の平成26年度から令和2年度までを井上学長が、令和3年度からは兼古教授（家政学部造形表現学科）が所長を務めています。「GOOD授業賞」実施に関する話を皮切りに、本学の教育活動に対する展望をふたりに聞きました。



井上俊哉 学長

名称に込めた制度の趣旨

——「GOOD授業賞」は以前からその構想があったのでしょうか？

井上学長（以下、井上） はい、かねてから色々検討してきました。というのも、授業がどうであったかを学生が評価しコメントを書く「授業評価アンケート」をずっと実施していますが、大学全体の授業をよくしていくには、教員個人が自分の授業への回答だけを参考とするのでは活用しきれないという課題認識を持っていました。そこで他大学の取り組みを調べるなど徐々に準備を進めたのですが、その最中に任期が終わり、次の兼古所長に託した流れですね。

兼古所長（以下、兼古） 以前からひとりの教員として授業評価アンケートをもっと活用する必要性を感じていたので、新設す

る意味合いは理解していました。実際にこの表彰制度を形作っていったわけですが、実は「GOOD授業賞」という名称そのものにこの制度が大事にしていることが詰まっています。他大学の類似制度はベストティーチャー賞という名称が多いですが、本学はベストではなく「GOOD」「ティーチャーではなく「授業」を使っています。関係者が集まりそれぞれの言葉を慎重に選びました。本学が授業を大事にしていることや、学生の授業評価アンケートに基づいた表彰という趣旨が議論の根底にいつもありました。

井上 命名の話を聞くと、もっともだなと思えますよね。良い授業はたくさんあって、1位2位といった序列をつけることが目的ではないわけで、「ベスト」ではなく「GOOD」で表現したのは意味深いと思います。それに、表彰の対象を「教員」ではなく「授業」とした点も大きなポイントですね。

兼古 学生の満足度が高い授業の良いところを見つけ、それを学内で共有し全学的な授業改善に繋げることが、表彰制度の目的のひとつにあります。教員ではなくて授業を表彰することで、そのような取り組みに対して教員たちがプラスに受け止められるといった効果も生まれるのではと感じています。

新しく特別なことではなく

——選考過程では、授業評価アンケートの得点とあわせて、学生の自由記述コメントや教員がどのような工夫を講じたか、と

いったことも加味して総合的に審査をしたと聞きました。選考過程で特に印象に残ったことはありますか？

兼古 表彰候補の多くが新しく斬新な取り組みを特別にしているわけではないというのが全体的な印象です。できることをより深く丁寧に積み重ねている授業が、学生の評価が高いのだなと改めて思いましたね。加えて、「コロナ禍で半ば強制的に授業の手法を変えざるを得ない状況ではありましたが、それをプラスに転換できた授業への評価が高かったのではないかと感じました。例えば、学生がスマホから回答を送信してリアルタイムでその結果を授業で共有できるシステムが本学で使えますが、こういったツールを軽快に利用して授業に役立てようといったような、教員のポジティブな姿勢が多く目に留まりました。

井上 似た印象をわたしも持っていて、何か特別なことをしているというよりも、学生との対話を大事にしている、これが評価の高い授業に見える特徴だと感じました。この対話というのは、対面での会話だけでなく、授業後のレポートにコメントを丁寧に返すとか、学生一人ひとりから寄せられた意見を次の授業でシェアするとか、学生と教員の間に何らかの形で一方通行ではないやり取りが生じていて、お互いが良好な関係で繋がっているということですね。選考委員会で学生の自由記述コメントを読み返して「先生みたいな教員になりたい」「この授業を履修して良かった」というのを読んで本当に良い授業なのだろうというのが

何があっても、どんな時代でも

——井上先生が述べた「学生と教員との対話」は、温かく学生に寄り添う本学らしさに通じる点だと思えますが、その良さを継続しながらも、東京家政大学が今後さらに力を入れていきたい方向性はどのようなところでしょうか？

井上 例えば数年前には予想もできなかったことが次々に世界で起こっています。競争であり、物価高騰であり……。このように変化が激しい世界で、これから何があってもどんな時代になっても、しっかりと自分の考えを持ち他者の意見や考えにも耳を傾け、自分も周りも大事にして生きていける人になって欲しいという思いをずっと持つ

ています。本学の多くの学生は目標に向けてとにかく一生懸命に頑張る真面目さを持っていて誇らしいのですが、一方で、世の中がどう変わっても、自分が思い描いたのとは違う状況が身に降りかかってきたとしても、それらを乗り越えて進む強さや柔軟性も身につけておいて欲しいのです。今年で開講4年目になる大学1年生対象の必修共通教育科目「スタートアップセミナー 自主自律」(*)は、わたしがCRED所長の時に開講した科目ですが、そのような希望を体現した科目でもあります。

本学が伝統的に強みとして育んできた資格取得をはじめとする専門教育の充実を維持しながら、プラスアルファをどう加えていけるのか、今まさにそこへ注力している真つただ中です。令和5年度から始まる副専攻もその一つですし、そのような方向性の強化を推し進めたいと考えています。

兼古 学生に何を身につけてもらうかといった具体的な到達目標を掲げるといいうのが、CREDが中核的に担っている教育マネジメント(*)ではよく求められます。他方では、到達目標を明確かつ具体的に落とし込むほどに特定の能力や知見に焦点が当たって、もちろんそれらを軽んじることはできないのですが、言うなれば包括的なその人が持つ力が置き去りにされてしまつ懸念を同時に抱いています。さらに、教育活動の進化を考えると、わたしたち世代が体験してきた教育をベースにして考えてもそれは空虚なものに過ぎませんし、次の世代に必要な教育を考えてこそ存在意義がある、それが極めて大事だと思っています。



井上 高等教育に求められるものは時代とともに変わるわけですが、令和3年度の大学進学率が54.9%で過去最高を記録したように、大学教育は一部のエリートを対象とするものではなくなっています。時代の変化に応じて、何のために、何を学ぶのかの問い直しが求められます。世界では分断が進む傾向にあり、他人を傷つけてでも自分の主張をSNSで発信する現象も見聞しますが、自分とは立場を異にする人への想像力の欠如を憂えざるを得ません。他者に対する想像力を持つためにも、物事を多面的にとらえ、立ち止まって考える力が重要です。自分のことを本当に大事にして、他者を尊重して寄り添える、そういった潜在力がこれからの社会や世界を良くしていくはずです。その潜在力を高めるためのアプローチを本学の教育に加えていく必要性を感じますし、学生の自己・他者理解の成長を促す策を講じていきたいと考えています。

就活特別プログラム ~就活ワンランクUP!~ チャレンジプログラム 始動

年々早まる採用選考、年々高まる人気優良企業の倍率を踏まえ、 大学2年生の希望者を対象とした就活特別プログラムが立ち上がりました。

就職活動を終えた先輩から後輩へ向けたアドバイスに「就職活動の準備を早い時期から始める」という声がこの1、2年の傾向として増えてきています。また、企業においては優秀な学生とより早く接点を持ちたいといった動きが加速し、3年次のインターンシップ開催数が大きく増えています。

こういった先輩たちの声や、社会の動き、企業の採用動向を踏まえ「しっかりとした助走期間を経て経験値を積み上げ、広い視野を持って就活を行うこと」を目的にこのプロジェクトがスタートしました。

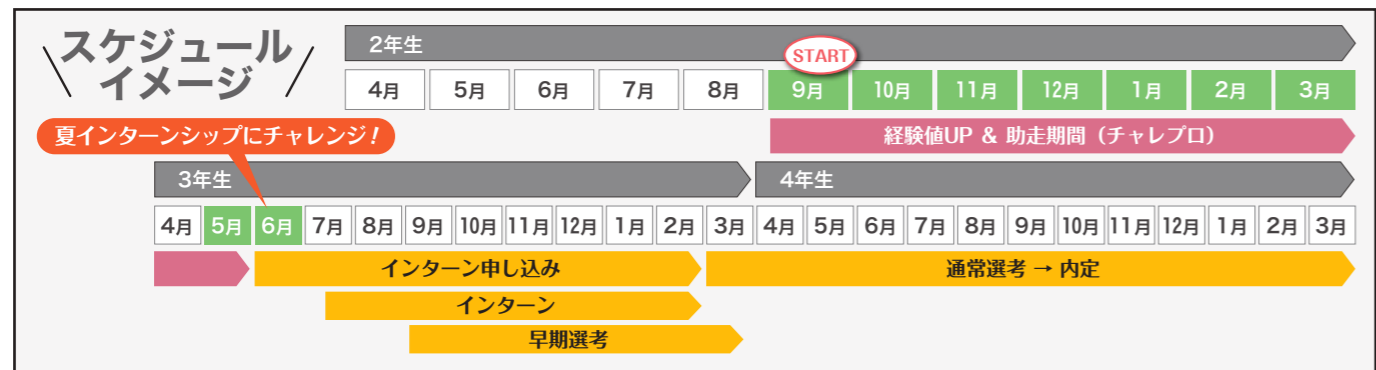
“ワンランク上”の
就活力を身につけたい

“自分に自信をつけて”
就活に臨みたい

“キャリアについてもっと
広く深く”考えてみたい

そんな意欲のある学生たちが集まり、切磋琢磨しながら成長し、自分がイメージしている就活の「ワンランクUP」を目指すプログラムとなっています。

対象は大学2年生（全学科）の主に企業就職希望者。現在約60名の意欲ある学生が参加しています。



講座内容

“チャレプロ期間”には、全7回のプログラムを実施予定。

第1回～3回では、主に自己PRやガクチカ（学生時代に力を注いだこと）等、自らの魅力を言語化することにチャレンジ。



学内企業セミナー

大学3年生・短大1年生を対象に学内企業セミナーを開催します。今年度は対面・オンライン合わせ約150社が参加予定です！

- 日程**
- 1/31、
 - 2/1・2
 - 2/7・8・9
 - 2/14・15



※写真は前年度の様子

学生コメント

- **ES (エントリーシート) 対策等の具体的な課題に取り組むことで、周りの学生と差をつけ、自分の納得のいく就職先を見つけたことができて考えました。他学科との交流もあり、就職活動に対して意欲のある学生と切磋琢磨できると思います。(造形表現学科)**
(服飾美術学科)
- **キャリアセミナー等を通して情報は得てきましたが、実際に就職活動をする**
- **自分一人では対策がでないグループディスカッションや面接についても学べることに魅力を感じ、ぜひプログラムに参加してこれらを学びたいと思いました。自分の良い所や強みなどを言語化することはあまり得意ではないので、これを機に克服して自己理解を深め、就職活動時には自信をもって取り組めるようになりたいと思います。(英語コミュニケーション学科)**
(栄養学科栄養学専攻)
- **自分の将来についてきちんと向き合い、後悔のない選択をしたいと思っています。今の自分を少しでも変えたい！自分に自信を持ちたい！そんな気持ちから、このプログラムへの参加を決めました。(英語コミュニケーション学科)**
- **私は子どもの健やかな成長のサポートをしたいという夢を持っています。教員として働くか企業に就職するか迷っている中で、チャレンジプログラムに参加し、早い時期から就職活動の準備をしておくことで悔いのない進路選択ができるかと考え応募しました。(心理カウンセリング学科)**

インクルージョンという共通性

兼古・井上先生が言及したこれからの社会や世界での学び意義について考えてみると、学び続ける力とよく表現されますが、自分を常にアップデートしていくことの価値がより高まると思います。これは大学そのものにも当てはまります。CREDでは、教育課程やその効果検証について量的評価は既に一定の評価は確立できていますが、今後は特に質的評価のための新たな手法を開発する必要があります。

学生が卒業時に身につけて欲しいスキルなどを定めた学修目標に対して、学生一人ひとりがその到達度を最大限に高められることを目指して、本年度はアセスメントポリシー（学修成果の評価方針）の策定を進めています。各学科とCREDが連携して進めていますが、学科から提示された原案に必ずフィードバックを返したり、学科からの意見・要望をきちんと聞く場を設けたり、そういった業務の現場でもお互いの気持ちを寄せ合いながら前進していくという点がある意味で今回のGOOD授業賞の表彰授賞に見られる「学生と教員との対話」と共通する点ではないかと感じました。授業においても、教育改善の現場においても、インクルージョンが共通する象徴的なキーワードではないでしょうか。

ずいっと重みある「もの」

——表彰式ではクリスタルトロフィーが表彰授賞の担当教員に授与されると聞きました。

兼古・クリスタルトロフィーについては、とかく何でもデジタル化が進む世の中で、何で「もの」が必要なのか？という問いに似たところの話になります。「GOOD授業賞」の表彰授賞が決定した報告をホームページに掲載すれば情報発信としては事足りますが、それは文字情報でしかなく実感を生み出すというには遠いと思っていました。トロフィーはずいっと重みがあったので、表彰授賞に選ばれて授与されたということが決して軽いことではないことを実感



クリスタルトロフィーに刻まれたロゴは兼古 CRED 所長のデザイン

が持つこの潜在力を生かして、さらなる発展に繋げられるように歩みを進めていきます。

できるし、時間が経ってもそれを目にすることができます。「もの」として存在することは表彰授賞の価値を認め尊ぶことを表すことができると考えて、トロフィーを授与することにしました。

井上・授与するときにトロフィーを持ちましたけど、結構重いんですね。その重みから伝わる実感というのは確かに納得できるし、そういう込められた想いを聞くところにしみますね。表彰授賞の良いところを分析したり学内で共有したりする機会を設けると聞いていますので、この賞とその意図がだんだんと学内外に認知されていくことに期待しています。

兼古・その第一弾として令和5年2月に表彰授賞の担当教員による講演会を学内向けに企画しています。専門分野が異なる他の教員でも参考にしやすいテーマを設定して、授業改善の知見やノウハウを学内で共有します。このような取り組みを含め、東京家政大学で学ぶ全ての学生のために、全学組織的な教育改善に向けた活動をこれからも創造していきます。(川島 直子)

(*) 新入生が半年間ともに学ぶ必修科目で、校舎ごとに学部・学科の枠を越えてクラスが構成され、5名程度のグループによる協同学修が中心の授業。

(**) 大学がその教育目的を達成するために行う管理運営。また、その確立に当たっては、学長のリーダーシップの下で、三つの方針（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）に基づき体系的で組織的な教育の展開、その成果の点検・評価を行い、教育及び学修の質の向上に向けた不断の改善に取り組むことが必要。(出典：2040年に向けた高等教育のブランドデザイン (答申) 用語解説)

井上学長 編

お雑煮の餅は角餅。田舎が松山でそこで年始を過ごしていた以前は丸餅だったらしく「本当はね、丸餅の方がしっくりくるんだけど、わざわざ取り寄せたりはしない」そう、聞くところによれば、某〇〇の切り餅（近所のスーパーで買えるあの庶民的なお餅）を食べているのだから。ちなみに雑煮の味付けは醤油。正月の過ごし方は「そうだね、散歩かな。たいいてい正月って天気が良いじゃない」という爽やかすぎる理由。

兼古所長 編

お雑煮の餅は井上先生と同じく角餅。「味噌ベースのお雑煮って想像つかない」という絶対的醤油派。対談では洞察力あるコメントをさらっと言うスマートな芸術系教育者も「お年玉をもらったらすぐにおもちゃ屋さんに行って使っていた」無邪気な子どもだったそうで、その隠された素に安心。帰省する田舎を持たないので「正月は近所の神社に初詣に行くのが特別にすることですかね。近所でいろいろ済んじゃいますね」というザ・都会っ子。

番外編

1月号は
正月ネタに頼り過ぎる
編集者の
取材小ネタ



「好き」を仕事に 商品企画職として新しい洋服を生み出していきたい



就職内定!
**「株式会社
ストライプインターナショナル」**
家政学部服飾美術学科4年
あら い ひ な こ
新井 日夏子さん

服飾美術学科での学びを活かし、「株式会社ストライプインターナショナル」の商品企画職に就職が内定した新井日夏子さん。東京家政大学での4年間と就職活動について話を聞きました。

服飾に関する技術や知識を総合的に学べることに魅力を感じて服飾美術学科に進学

◎ 本学、また家政学部服飾美術学科に入学した理由は?

小学生の頃から服が好きで、将来はデザイナーを目指し、服飾について学びたいと考えていました。大学と専門学校を検討しましたが、専門学校の場合は縫製など技術面での学びが中心となり、大学の場合も洗剤や繊維の研究といった理系寄りの学びが中心になる印象を受け、進路選択に悩んでいました。学校調べを進めていく中で東京家政大学のオープンキャンパスに参加し、「服飾美術学科では1〜2年次には服飾に関して総合的に学び、3年生からは自分の進みたい方向を考え、専門分野を選択し、学びを深めていくことができると聞きました。



将来を考えたい時に「今はデザイナーになりたいけど、全く別の職種を目指すかもしれない。縫製技術、もしくは服飾に関する科学的な研究、どちらかに絞るのではなくバランス良く学びたい私には「ピタリだー」と考えて進学を決めました。

服飾団体EVEの活動でヘアメイクチームの代表を経験。リーダーシップを発揮してファッションショーの成功に貢献

◎ 新井さんが在学中に最も力を入れたこととは何でしょうか。そしてそれが就職活動にどう生かされたのかを教えてください。

ちなみに、ポートフォリオの作成にあたっては、「コンピュタグラフィックス」という授業で学んだPhotoshopやIllustratorのスキルを生かして、こだわりのポートフォリオを作ることができました。また、ポートフォリオを通じて、企業側へPhotoshopやIllustratorを使用できるというアピールにつながったのではないかと思います。



「何を感じて、なぜその行動をとったのか」を表現する「個性を伝えよう」

◎ これから就職活動に向けて後輩たちにアドバイスをお願いします。

就職活動を始めるご自分の個性を表現することに悩む就活生が多いと感じました。就職活動を進めていくうちに突飛な個性を出す必要はないと気がつきました。同じ行動をするとしても、その過程は人によって異なります。「何を感じて、なぜその行動をとったのか」、それを表現することで個性が伝わるのではないかと思います。等身大の「あなたらしさ」を見つめ直し、人間味を伝えることを大事にしてみてください。

卒業制作、ドリームプランのプロジェクト推進、大学生生活の集大成として全力で取り組みたい

◎ 4年生というところで、学生生活も残り少ないですが、これからどのように過ごしたいと思いますか。

1年生の時から学園祭「緑苑祭」でファッションショーを開催する服飾団体EVEの活動に力を入れました。3年生の時には約50名が所属するヘアメイクチームの代表を務めました。コロナ禍で活動の制限がある中、リーダーとして大所帯のチームの活動をどのように推進するか悩みながらも、他のチームとの密な情報共有や個々のメンバーとのコミュニケーションを大事に、一人ひとりが当事者意識をもてるよう工夫し、ファッションショーの成功に貢献することができました。就職活動の面接ではEVEの経験からエピソードを話すことも多く、採用側の面接官も共感を得られる話ができたとはいえます。

念願の商品企画職として内定を勝ち取る

◎ 就職先企業として、株式会社ストライプインターナショナルに決めた理由を教えてください。

アパレル企業を中心に就職活動を行い、最終的に多くのブランドを持つ総合的なアパレル企業である株式会社ストライプインターナショナルから内定を頂きました。面接を受けていく中で自由な社風で風通しが良い印象を受けましたし、面接官とのコミュニケーションがスムーズで、最も自分らしさを出



大学生生活は多くのチャンスがある自ら行動し、様々なことに挑戦して欲しい

◎ 後輩や、これから東京家政大学に入学する高校生に向けてアドバイスやメッセージをお願いします。

とにかく行動して、様々な経験をしてください。大学生生活では大学での学びも課外活動も多くのチャンスがあります。私は特にEVEのチームの経験を通じて、1つの経験が次の経験につながり、人とのつながりが広がっていくことを実感しました。大学生生活も就職活動も自ら行動していけば可能性が広がっていきます。ぜひ様々なことに挑戦してみてください。

せ、自分らしさを見てもらった上で採用して頂けたと感じました。また、何よりも商品企画職という職種にこだわりがあり、商品企画職で内定を頂けたことが決め手となりました。

◎ 「好き」と「憧れ」と「適性」が合った商品企画職の仕事内容を教えてください。また、なぜ商品企画職を選んだのかを教えてください。

実際に社員の方から仕事内容についてお話を伺いました。まず、シーズンごとにどんなアイテムを作るかシーズンマップを描きます。デザイナーとして洋服をデザインし、同時並行でマーチャントライザーと協力して方向性を決め、仕入れ先と商談を進めます。その後試作品のチェック・修正を重ねた上で発注し、最終的には展示会を行います。複数のシーズンを並行して企画を進めていかなければならず、マルチタスクスキルが求められます。

商品企画職を目指した理由は仕事の一つとして、洋服をデザインするという夢を実現できることです。また、自分自身の性格上、同じ業務を繰り返す仕事よりも自分のアイデアで何か生み出す仕事の方がやりがいを感じるため、商品企画職が自分の適性に合っていると思いました。

自分自身の好きと憧れと適性がかみ合っており、商品企画職を志し、夢を実現することができたのではないかと思います。

行動力を生かして、面接前に志望企業の店舗で店員さんに直撃インタビューを実施

◎ 就職活動において、新井さんが特に力を入れたことは何ですか。

面接前には必ず面接を受ける企業の店舗へ行き、店員さんにインタビューを行いました。お客様のニーズやトレンドについて、また売上を上げるための工夫など、具体的なインタビューを行うことで、企業やブランドへの理解が深まりました。面接時には実際に基づく話は自分の言葉で話しやすく、自分の「考え方」と熱意が伝わったのではないかと思います。

エントリーシート、面接、ポートフォリオ、いずれも自分がどんな人間なのか、を伝えることを念頭に

◎ 就職活動に関して大学で受けたサポートや学びが就職活動に生かされたエピソードがあれば教えてください。

キャリア支援課が開催しているキャリアアドバイザーとのオンライン面談を受講しました。中でも「エントリーシートを書く際には自分の体験談と思考の仕方を書く」というアドバイスを印象に残っています。エントリーシートには結果や事実を羅列するのではなく、何を考えてどう行動したか、自分がどんな人間なのか、が伝わるような書き方を意識し、面接でも心がけていました。また、アパレル関係の企業を受ける場合には自分の製作した洋服などの作品をまとめたポートフォリオの提出が求められる場合があります。ポートフォリオも同様で、自分自身がどのようなものが好きな人間なのかを伝えるよう、工夫を凝らしました。採用担当の方からは「学校のテーマや与えられたものではなく、等身大の自分が表現できており、リアリティがあった」と評価して頂きました。私が受けていたのは特に商品をデザインしていくという職種であるため、「どんなものをどんな考えで作る人なのか」を伝えることが大事だったのだと思います。

活躍する卒業生

有限会社みゆき画廊代表取締役 現在うしお画廊店舗経営

牛尾 京美さん
(服飾美術学科卒業)

東京生まれ。東京家政大学附属女子高等学校から東京家政大学家政学部服飾美術学科美術専攻へ入学、1981年（昭和56年）卒業後、デザイン会社の勤務を経て、1984年にみゆき画廊へ入社。2003年先代オーナーが亡くなり、2代目みゆき画廊オーナーとなる。2016年3月、創立50周年の後、ビル立て替えのため一旦みゆき画廊を閉廊。同2016年6月よりうしお画廊店舗を立ち上げ、現在も経営。みゆき画廊閉廊の折「ベイリイさんのみゆき画廊」みずす書房刊を出版。



分野のアーティストにとっては一世一代の夢です。先代オーナーであるベイリイさんの時代よりその夢の実現のために画廊はアーティストのお手伝いをしたいと考えています。作品を拝見し、開催期間中の1週間は、その作家・作品を良く理解し、好きになることから作家の方とのつながりの始まりです。まずは展示にも私が直接関わります。絵の並びは作品にとっても重要です。良い展示会になる事はアーティストの活躍を手助けします。うしお画廊では、そのアーティストのさらなる活躍を喜びとし、アートを通じて人と人を繋げる役割を果たしていきたいと思いで画廊を続けています。

コロナ禍の中で「うしお画廊」はどうだったのか

座長の怒り、ほろろめろろ

アーティストの手助けになりたいと思う気持ちはコロナ禍でも同じでした。

銀座にある300件ほどの画廊のうち、コロナ禍で開いていた画廊は、3軒のみで、そのうちの1つが、うしお画廊でした。決まっていた展示会をやめるという事はアーティストにとって悲しい事です。又、多くの人達が混乱している時こそ展示会をして気持ちを明るくしてほしいという思いで、展示会の様子をYouTubeで発信し続けました。困難があっても「あきらめない」といういつも思っている気持ちで、コロナ禍でも画廊を開催し続けるという原動力となりました。

本学酒匂譲先生 みゆき画廊のベイリイさんとのお話

附属高校に在学していた私の大学選びは、附属推薦の範囲の中から学科専攻を取捨選択した結果、興味を引かれた服飾美術学科美術専攻に入学し、在学中は幅広く美術・工芸を学ぶ機会を得、様々な作品制作を体験・体感しました。卒業制作は、酒匂譲教授の教えの元、絵画制作

を選択しました。卒業後はデザイン会社に就職しましたが、2年半で退職し、転職活動をしていた面接試験の帰り道、国鉄赤羽駅（現在JR赤羽駅）で卒業以来お目にかかっていたいなかった酒匂教授に思いがけず声をかけられました。近況を話したところ、私の状況を心配されたようでした。気分を変えに来いといご自身の個展の案内状を渡してくださいました。恩師のせっかくのお誘いなので個展会場（みゆき画廊）へ伺ったその日に就職の提案を頂きその場でオーナーのベイリイさんの採用面接を受けみゆき画廊で働くこと

子供たちの心を育てるために 生のアートを見せたい！

行動に起こした事が、すぐに結果として見えるわけではありませんが、やり通してみないとわからないですし、形にならなくても、一生懸命やっていくその過程がとても大事であると思います。その思いは子供達に絵を見せる事に繋がらないかと考えます。

日常的にアートに触れる事はとても大切な事だと思っています。すぐに何かの結果は出せないかもしれませんが、親御さんとお子さんと一緒に気軽に画廊に足を運べる環境を作りたいと考えてます。



酒匂譲氏みゆき画廊に於いて

今回、ご紹介した牛尾さんは、経験を積んだ画廊のオーナーでしたが、お話からにじみ出るお人柄からは、ほかほかと春の陽ざしが降りそそがれているような錯覚を覚えました。これまで、苦労され

アーティストたちの 成長のお手伝いをしたい

銀座で画廊を借りて個展を開く事はあ

た事柄を東京家政大学の生活信条「愛情・勤勉・聡明」のごとく、明るく乗り切ったお話は、何時間でも聞いていたいと感じさせる素敵な卒業生でした。



みゆき画廊50周年記念展

ある時は、アートは心を豊かにし、ある時は、心を昇華してくれます。これから育つ子供たちには、沢山の絵画や彫刻に触れる機会を作ってあげられたいいなあと思うのです。画廊は入場料がかからず、鑑賞が楽しめます。画像では伝わらない、感じられない「アートの力や、アートのもつ感情」に触れさせてあげたいのです。そうすることが子供達の心を育てることの手助けになると強く思っていますので、それがこれからのやり通してみたい仕事です。



うしお画廊三浦幸子展



連載 SDGsのゆくえ

目標ができると、人はそこへ向かおうとする。
向かう場所がわかれば、わたしたちはそこを目指し歩み始める。
その意思と歩みが、未来の景色を明るく灯してくれる。

だからこそ、掲げた目標を現実の景色として目にするまで、
みんなで手をつなぎ、決して諦めることなく、
わたしたちはそのゆくえを追い続けなければならない。

東京家政大学は、
持続可能な世界を目指すSDGsのゆくえを追い求め、
一歩ずつ前に進んでいきます。



プロジェクト開始までの経緯
昨年令和3年度の春、当時、日本ガラスびん協会のSDGs推進ワーキンググループでは、ガラスびんの環境負荷特性に関する学生向けセミナーパッケージを開発中で、セミナー参加者対象のガラスびんを利用した楽しめるワークショップも模索していました。協会から相談を受けた造形表現学科メディア・情報デザイン研究室では、ガラスカレットを使ったテーブルアクセサリー制作のワークショップを考案し、学科の学生から希望者を募りセミナー+ワークショップを実験的に実施しました。この小規模なイベントは成功し、協会から昨年度末に次のプロジェクトの打診がありました。それがbe draw projectの出発点です。協会にとっては若者がガラスびんの価値を再認識する機会を設けたい、本学にとっては学科横断+産学連携のプロジェクトに学生を参加させられる機会になる。コロナ禍で否応なく狭まっていた学生の活動を広



げ直す一歩にもなる、そのような思いから積極的な検討をはじめました。計画当初は令和5年度の実施をイメージしていましたが、ファミリーマートさんをはじめとした協力体制が整うのを感じ、見切り発車の面もありましたが、6月の後半近く今年度の実施を決め、参加学生を募集し、プロジェクトは走り始めました。

取り組み体制

主催：日本ガラスびん協会/東京家政大学

協力：ガラスびん 3R 促進協議会/富士ボトリング株式会社/ファミリーマート東京家政大学店

WEB <https://be-draw.net/>

be draw project
プロジェクト名について
プロジェクト名の「be draw project」は、ポルトガル語でガラスを意味する「vidrar」に「ガラスびんの未来を描いていきたい」という思いを重ねたプロジェクト名称です。参加学生が全員でアイデアを持ち寄り、ディスカッションを経て決まりました。

今後の展開について
be draw projectの飲料販売は今のところ年明けの1月まで終了と告知していますが、現在、春以降の再開・継続の検討を始めています。一定量のデータが収集できたところで、環境負荷低減効果を分析し、報告書の作成・発表へつなげていく計画です。
また、日本ガラスびん協会とは他大学などへの展開も話題に上っています。産学連携に加えて大学間連携となれば参加学生にとって一層意味のあるプロジェクトになるでしょう。

SDGsのゆくえ vol.4

東京家政大学 × 日本ガラスびん協会

産学連携プロジェクト

be draw project

〜びんで描く、びんで繋げる〜

洗って繰り返し利用できる、リターナブルびん商品を活用し
学内CO₂排出削減を可視化する実証事業を開始。
授業の一環として学生主導でプロジェクト進行。

本プロジェクトは洗って繰り返し利用できるリターナブルびんに入ったミネラルウォーターを学内(板橋キャンパス)で販売し、空きびん回収・洗浄・再充填・再販売し、校内におけるCO₂削減を計測、可視化を試みる実証事業であり、リターナブルびんの価値を再定義していく活動です。
本プロジェクトは造形表現学科(担当教員/宮本真帆 准教授)と環境教育学科(担当教員/井上 宮雄 准教授)、2学科の有志学生が協力して進行している、授業の一環としての活動です。
活動は2022年7月下旬からスタート。プロジェクトコンセプトワークづくり、プロジェクト名やロゴ開発、各種デザイン、CO₂削減計測、計測結果の可視化まで一連のプロセスを学生たちが主体となって進めており、夏休み期間中も打ち合わせを重ねてプロジェクトを推進してきました。



リターナブルびんを取り巻く背景

持続可能な社会を目指す中で、環境負荷の観点からも、リターナブルびんを再評価する機運が高まっています。リターナブルびんは、100年以上の歴史を持つ我が国独自のリユースの仕組みがあり、一升びん、ビールびん、牛乳びんなどが、リターナブルびんとして繰り返し使われてきています。

販売について

2022年11月1日〜2023年1月31日まで、ファミリーマート東京家政大学店で販売しています。冷やしたものの他に常温も用意されています。
リターナブルびんには王冠で栓をしています。開けるには栓抜きが必要ですが、これもファミリーマートに置いてあります。王冠は一度開けると閉められません。飲みかけのびんを持ち歩くのに不便です。そこで、このプロジェクトに賛同して協力してくださる方に、シリコンのキャップを差し上げています。

担当教員コメント



家政学部/造形表現学科 准教授 宮本 真帆 先生

本学が掲げるビジョンの中に「『ひとの生(Life)を支える学』を生かし産学官民と連携する」というものがあります。SDGs活動は正にこれに直結するものであり、本プロジェクトに産学の連携に加えて専門性の大きく異なる2学科が連携して当てることで、参加学生らに貴重な経験をもたらしているでしょう。様々な行動制限からようやく解放され始めた今実施できた点も、実学・実習を重んじてきた本学教育にとって大きな価値があります。ご協力いただきました皆様に感謝いたします。

に向けた様々な取り組みが行われていまいす。そのような中で持続可能な社会の実現に向けた日本ガラスびん協会様との連携プロジェクトに、本学学生が参加できることを嬉しく思います。温室効果ガス排出削減に向けた取り組みについて、学生たちが座学だけでは体験することができない学びを本プロジェクトから感じてもらえたらと思っております。

みなさんが飲んでくださるガラスびん入りの水、その1本1本が地球温暖化を少しだけ抑えます。1人でも多くの人がこのプロジェクトに参加してくださることを期待しています。

be draw project 学生インタビュー

Q 今後、本プロジェクトで期待することや目指していることはなんですか？

A 今回のプロジェクトではペットボトルをばさず瓶に入った水を買うことがこれからの地球のためにことができることです。リターンブルびんをもちいたミネラルウォーターを買ってより環境のために身近に感じて環境を思いやってもらえたらいいと思います。(A.U.)

より多くの人にガラスびんを手にとってもらい、このプロジェクトを知った人が少しでもガラスびんに興味を持ち、これから

の日常の中でもガラスびんを選ぶ機会が増えることを期待しています。(M.I.)

Q 今回のプロジェクトは単位認定される時間外活動として学生の皆さんが主体となって進行されたという聞いております。プロジェクトに参加してよかったと思うこと、また、大変だったことや苦労したことなど感じたことを教えてください。

びんは持ち運びに不便かとお思いだと思いますが、今回販売されているものは軽量化されているのでみなさんの思っている以上に持ち運びやすいものです。地球のためにできることとして一度びんを手にとっただけなら幸いです。(A.U.)

どの工程もとてもやりがいがあり、とても大変でしたが、一番印象的なのはプロジェクト名を考えたことです。予定よりも長く話し合ってた大変だったと思います。みんなでたくさん話し合ってた最終的に「be draw project」に決まりましたが、このプロジェクトがガラスに関連していること、私たちの未来をつくる架け橋になるプロジェクトになることを表すことができずすてきな名前になったと思います。(A.U.)

Q 今後のプロジェクトへの思い、読者の皆さんへのメッセージをお願いします。



プロジェクト名からロゴ・シンボル・ポスターなどのデザインまで、メンバーでアイデアを出し合ってた話し合い、一から創り上げるという経験ができたことが良かったです。デザインを検討する上で、たくさんアイデアをプロジェクトの目的と照らし合わせながら、一つの方向性にまとめていくというのは大変だと感じました。(M.I.)

SDGsのゆくえ

vol.4

「ソーシャルグッドな絵本」の展示と読み聞かせ

2022年10月15日(土)、16日(日)に開催された板橋区民まつりにおいて、児童学科・保育科の尾崎司教授とゼミ生が「ソーシャルグッドな絵本」の展示を無印良品ブースにて行いました。この企画は、SDGsの課題解決目標を含む、ソーシャルグッドな活動を暮らしの中で考えるために選書した絵本108冊を展示し、板橋区が掲げる「絵本のまち 板橋」のブランドイングを盛り上げながら、持続可能な社会づくりに貢献する活動です。同活動を行っている、児童学科・保育科の尾崎司先生にお話を聞きました。



家政学部児童学科・保育科 教授 尾崎 司

着想は「絵本×ソーシャルグッド×ESD」 社会にインパクトを与える行動への参加契機に

この企画は、わたしが本年11月にオープンした無印良品板橋南町22号コラボして行った、「地域共創プログラムCANVAS」の活動の1つです。CANVASは「暮らしのイノベーションを育てる」をコンセプトとして、人の暮らしやSDGsに関心のある学生を募集し、学

板橋区は「絵本のまち 板橋」をブランドイング化しており、無印良品は「ソーシャルグッドな活動」を展開してきました。わたしはこれまでESD(持続可能な開発のための教育)を行ってきた中で、「絵本×ソーシャルグッド×ESD」でこの企画を思いつきました。学生にはわたしの社会活動の経験やノウハウを生かしてこの企画に取り組み姿に触れそれを一緒に実行するなかで、企画のプロセスや企業とのやりとりを学んでほしいと思っています。

わたしは25年間近くグローバル教育(地球市民教育)を実践してきました。グローバル教育は、環境、開発、人権、平和、メディアなどの地球規模の問題群をテーマとし、主体的に解決へ取り組む地球市民を育て、ホリスティックな教育体系です。これを実践するなかで、「気づきはある。省察はある。でも、行動につながらない。気づきから行動へは、壁がある」というのが、ずっと課題でした。だから、SDGsの教育的な部分につながる、「ESD(持続可能な開発のための教育)の10年」が始まった2005年に、本学で「企画の教室 グリーン」というESDプログラムを実践し、学

「ソーシャルグッド」がESDにつながる。板橋区民まつりでの「ソーシャルグッドな絵本」展示では、子どもを取り巻く大人が社会的課題に気づき、心を動かし、まず自分から率先して行動してほしいという願いを込めて、大人向けに108冊の絵本を選びました。わたしが行うワークショップの教材研究として始めた選書ですが、①つながりを感じる、②問題を見つめる、③思いを尊重する、④ものの見方に気づく、⑤思いを大切に、⑥創造性を発揮する、⑦行動してみようという3つのジャンル分けとなっています。この3つのジャンルは、「ソーシャルグッド」、つまり社会にとって、自分が何か善いことをしたいという内発的な想いから、SDGsへの行動を起こしていくことを表現したものです。ゼミ生は7つのジャンルのコンセプトボードをつくるために108冊の絵本を読み込み、さらに108冊のおすすすめ本を制作しています。

板橋区民まつりは、多くの来場者に変容喜ばれました。今後は無印良品の新店舗をベースに地域を巻き込み、「絵本で多世代交流」がやりたいと思っています。わたしは高齢者と幼児の世代間交流の研究をしており、シニア世代が子どもたちに絵本の読み聞かせをする東京都健康

今後は地域を巻き込み「絵本で多世代交流」暮らしのイノベーションを巻き起こしたい

板橋区民まつりは、多くの来場者に変容喜ばれました。今後は無印良品の新店舗をベースに地域を巻き込み、「絵本で多世代交流」がやりたいと思っています。わたしは高齢者と幼児の世代間交流の研究をしており、シニア世代が子どもたちに絵本の読み聞かせをする東京都健康



板橋区 坂本健区長(写真中央)と区民まつりにて。絵本のタイトル(左から)「もじもじこぶくん」小野寺悦子/きくちちき(福音館書店)「たまごにいちゃん」あきやまただし(鈴木出版)「わたし」谷川俊太郎/長新太(福音館書店)「ぼくのまちをつくるう！」スギヤマカナコ(理論社)「ポリポリ村のみんしゅしゅぎ」藤田純/おかやまたかとし(かもがわ出版)「べしのおたらしいふく」エルザ・ペスコフ(福音館書店)「ぐるんぱの幼稚園」西内ミナミ/堀内誠一(福音館書店)

長寿医療センター研究所の活動「りぶりんと」に以前から注目していました。今後「りぶりんと」と協働し、シニア世代と子どもの世代間交流に大学生や親世代が加わり、多世代交流の活動を一緒にできるように提案、実施する予定です。また、新店舗オープン前に手作りの「おみくじ」を作ったんです。読む本に迷ったときに、このおみくじを振ると、絵本のタイトルが彫刻された札が出てきます。手作りのマッチング・アイテムと言えますが、重要なのは、これを使ってどんなソーシャルデザインが展開できるかだと考えています。例えば、区内の図書館や学校図書室からおすすすめ絵本のリストをもらい、そこから作成した絵本札を入れて置いてもらうことで絵本を読むことの促進になるかもしれないし、そのリストを板橋区内から収集して、MUI Booksの棚に揃えて紹介したら、「絵本のまち 板橋」が盛り上がるかもしれません。そしてこれからは無印良品のスタッフと学生と一緒に、新店舗から、小さくてもいいのでイノベーションを起こしていきたいですね。そうしたことを積み重ねていくうちに、「暮らしのイノベーション」が学生の中から出てくることを期待しています。

2022年度 **板橋・狭山 緑苑祭** 板橋・狭山両キャンパス 3年振りに対面開催!!

第62回 緑苑祭 in 板橋キャンパス
10/22(土)・23(日) 再出発—新しい旅へ—



第9回 緑苑祭 in 狭山キャンパス
10/23(日) 自由奔放—心のままに全力で!—



卵を使った学生レシピが商品パッケージに掲載

昭和産業グループとの産学連携事業として、「第9回たまごのある暮らしレシピ開発教育プログラム」を実施しました。本年度は十分な感染対策を講じた上で2年ぶりの対面開催となり、栄養学を学ぶ学生が実践型教育プログラムを経てレシピを考案しました。

5月の説明会に始まり、同グループ社員による勉強会や、レシピ検討会、最終レシピ講習会を含め約4か月間に渡り実施しました。過去最大数となる応募総数63点の中から書類選考を経て学生8名が採用され、栄養面も見た目も味もより良くなるよう専門家との意見交換を経てレシピのブラッシュアップを重ねました。

9月15日(木)の最終レシピ講習会では、同グループ役員を含む審査員へ向け



集合写真



最優秀賞
トマトの
ミルクセーキ

昭和鶏卵賞
ひんやり卵の
寒天寄せ

審査員特別賞
たんぱく質補給に!
卵のり巻き



表彰式

ヒューマンライフ支援センター **産学連携事業** 昭和産業グループ・ソラールホテルズアンドリゾーツ(株)

栄養学を学ぶ学生がホテルと協力した朝食プロジェクト始動!

ソラールホテルズアンドリゾーツ株式会社との産学連携事業として、同社が運営するチサンホテルズ(一部店舗)の宿泊者へ向けた食育活動を行いました。

「カラダに美味しい朝食を食べよう! プロジェクト」と題し、企業による説明会や、食材と栄養素の働きについて学ぶ事前学習及び勉強会(グループワーク)を経て、栄養学を学ぶ学生がコメントを作成しました。勉強会では、ホテルの朝食メニューを元に設定された8つの健康テーマについて、その根拠や、食材と栄養素についての理解を深めました。他学年との意見交換を経験し、学生からは「もっと知識を身につけたいと思った」「先輩方のように自分の意見をはっきり伝えたい」等の感想がありました。

学生の知識と想いがつまったコメントは、企業が制作した「栄養POP」として2022年10月31日(月)より対象ホテルにて掲出されています。



ホテルエントランス ※写真はイメージです



栄養POP



学生による発表

新規提携校のご紹介

カナダ ジョージアンカレッジ(予定)

コロナのパンデミックはまだ終息したわけではありませんが、海外の大学が留学生受け入れを再開し、東京家政大学でも令和4年度より海外研修を再開することとなりました。ただ、海外提携先の大学もコロナ禍を経験し、留学生受け入れ体制が多くの学校で変わってきました。このような理由から新たな可能性を求めてカナダ東部のバリー(Barrie)市にメインキャンパスを持つGeorgian Collegeを訪れました。人口15万人ほどのバリー市は、トロント市から自動車でも北へ1時間少々先の所にあります。町にはSimcoeという湖があり、非常にのんびりとした静かな町です。

Georgian Collegeは学生数13000人ほどで、うち留学生は4500人ほどの非常に国際色豊かな学校です。カナダでCollegeを名乗る学校はいわゆる実学に秀でた学校が多く、Georgianも同様に実学に力を注いでいる学校です。その点では家政大学に非常に良く似ています。栄養の授業で作成した食事を学食に提供したり、看護の学生が学内のクリニックで患者を看護することもあります。また、飛行機の客室乗務員を目指す学生用のプログラムや、企業の営業職に必要な能力を身につけるコースなどもあります。そして、日本で勉強したいというGeorgian生のための奨学金が用意されているとの話ですので、TKU Summer Programへの学生参加も期待されます。

実施が可能になれば、6ヶ月と1年の長期研修を行い、東京家政大学全学部・学科より参加学生を募る予定です。



オーストラリア アデレード大学

今年から新しく研修先に加わったのが、南オーストラリアにあるアデレード大学です。オーストラリアの中でも3番目に古い大学というだけあり、学内の建物も歴史ある建築物が多いので、キャンパス内を散歩するのも趣があります。大学では芸術/工学・コンピュータ・数理科学/保険・医療科学/専門職/理学の5つの学部があり、宇宙工学、ワイン醸造学、アボリジニ(オーストラリア先住民)の歴史なども学ぶことができます。

家政大学の研修参加学生が通うことになる、アデレード大学付属の語学学校(English Language Center)はアデレード大学から徒歩7分ほどにある、街の中心部のビルにあります。ここでは、月曜日から木曜日までは4技能の集中的な強化と、金曜日はオーストラリアの文化について英語で学びます。授業の一環で、街中でアンケート調査をしてプレゼンテーションを行うこともあるそうです。

アデレードの町は「文化と芸術の都」と呼ばれており、大学周辺にも公共の美術館、博物館、図書館、植物公園がありどれも入場料は無料。人口は約130万人、オーストラリア国内だけでなく、世界で最も住みやすい都市と評価されています。オーストラリアの都市の中でも比較的日本人が少なく、英語を学ぶのには適した環境です。



まるでハリポッターの世界観のような大学図書館

ニュージーランド オタゴ大学(予定)

ニュージーランドの南島にあるオタゴ大学が来年から新しく研修先に加わります。オタゴ大学はニュージーランド最古の大学で、メインキャンパスがあるダニーデンは学生の街です。海と山に囲まれた自然豊かなのどかな街ですが、メインストリートであるGeorge Streetは活気があり、人気があるカフェやレストランは学生でいっぱいです。

研修参加学生が通うことになる、オタゴ大学付属の英語学校(University of Otago Language Centre)はダニーデンキャンパスの中心から徒歩10分ほどの所にあり、大学のジムと同じ建物の中にあります。ここで月曜日から金曜日まで4技能を総合的に伸ばすGeneral Englishと選択科目で週23時間学びます。選択科目には海外の大学では珍しいTOEIC®の授業もあります。授業内外で様々なアクティビティが準備されています。学生サポートの部署には日本人スタッフや日本で暮らしたことがあるスタッフがいて、もしもの時にも安心です。

ダニーデンはオタゴ地方の中心都市で、南島ではクライストチャーチに次ぐ2番目に大きな街です。1848年にスコットランドからの移民たちにより開拓され、ゲール語でエディンバラを意味するダニーデンと名付けられました。現在でも「南のエディンバラ」と称されるほど、スコットランド文化を色濃く残しています。オタゴ半島はワイルドライフで有名で、ブルーペンギンやイエローペンギン、オットセイやアシカを間近で見られるツアーもあります。



メインビルディングでHarry Potter Buildingの愛称を持つ!

図書館

東京家政大学グローバル教育センター 韓国人学生との英語交流会

学生留学アドバイザーが中心となって、韓国の大学の学生と初の交流会を開催しました。

学生留学アドバイザー 子ども学部2年 F.N.さん

11月30日、韓国産業技術大学の学生2人、東京家政大学の学生6人がオンライン上に集まり、初の英語交流会を行いました。この交流会は、東京家政大学の学生留学アドバイザーが企画したもので、今回この企画を行うにあたって、協力してくれた韓国人学生は、留学アドバイザー数名が昨年の冬に参加したMake a Difference Program マッセイ大学Global Challenge コースで共に学んだ仲間です。今年の春、留学アドバイザーで1年の予定についての話し合い、その時に韓国人学生との交流会をしたいということも話題には上がっていました。今回、それをやっとな実現することができ、心から嬉しく思います。

交流会では、まず初めに自己紹介を行い、お互いの国の好きなものを言いました。日本人学生は、トッポギや辛ラーメン、韓国ドラマなどを挙げ、韓国人学生は、お寿司やアニメのワンピースなどをあげてくれました。その後、2つのグループに分かれて交流しました。韓国発祥の焼酎「チャミスル」の好きな味や、休日の過ごし方などを話しました。特に盛り上がった話題は、日本でおすすめのスポットについてでした。今回参加してくれた韓国人学生の周りの友達が、今年の冬に日本旅行を計画しているようで、私たちは東京ディズニーランドや浅草、チームラボプラネッツTOKYOなどをお勧めしました。日本人学生からも韓国でおすすめの観光スポットを教えてくださいという質問があり、韓国人学生は、チェジュ島をお勧めしてくれました。

今年は、日韓共催ワールドカップから20年ということで、日韓両国の政治家が40名程集まり、日韓の関係改善のためにサッカーの試合を開催したというニュースがありました。私達大学生も小さな力ではありますが、このような交流を続けていくことで、日韓両国の学生達が互いの国、文化をよく知り、友情を築いていきたいと思えます。そして、日韓両国が協力して東アジアの素晴らしさを世界に向けて発信していけるようになる未来を期待します。



国際料理教室

11月17日(木)に留学生と日本人学生との交流イベント「国際料理教室」を実施しました。対面での実施は3年ぶりとなりました。

今年は事前に「韓国スイーツ」、「アフタヌーンティー」、「ヨーロッパスイーツ」、「アジアスイーツ」の4つのタイプから学生に作ってみたいものを投票してもらい、「ヨーロッパスイーツ」が選ばれました。

「ヨーロッパスイーツ」の代表であるチュロス、ショートブレッド、ブルーベリークランブルケーキ、スコーンをグループに分かれて作りました。

グローバルリーダーズ(グローバル教育センター公認の学生ボランティア団体)が中心となって、留学生や異なる学科・学年の学生が力を合わせてデザート作りに奮闘しました。

最後には、全員で出来立てのデザートを堪能しました。デザートを食べている学生の表情が幸せそうなのが、印象的でした。チャイを飲みながらグローバル教育センター職員のインドについてのレクチャーもあり、国際色あふれたイベントとなりました。



予告 春休みイベント 詳細についてはmanabaやポータル等でお知らせしますので、チェックしておいてください!

◆2023年1月26日(木)・1月27日(金) 「海外経験はどう生きるか・生かすかー挑戦し続けるTKU OG」開催予定!
在学中に本学の海外研修に参加した卒業生や海外でのお仕事を経験した卒業生をご招待して、それらの経験がその後、どうやって日本国内で生かされているか・生かそうとされているのかを伺います。海外へ行く事を悩んでいる方には是非とも聞いてほしい内容です。

中学 ふとした瞬間に

なぜか人は何気ない瞬間こそ、心に残るものなのかもしれません。
 コロナ感染症の心配もある中実施された、附属中学校76期生の沖縄へのふれ旅修学旅行。平和学習や自然とのふれ合いなど、11月13日～16日の3泊4日の行程を無事終えることができました。私の胸に最も印象付けられたのは、大それた観光地などではなく、何気なく生徒たちと浜辺を散策したり、ホテルで食事をし、自由に生徒たちと過ごした時間でした。そんな何でもない瞬間の方が、人の心に強く焼き付けられるのはなぜでしょうか。不思議なものです。
 11月12日、前日に行われた最後のLHR。私は生徒たちに3つのお願いをしました。明るく元気に、約束を守り、思いやりを持って過ごしてほしい。ふれ旅中、この3つのお願いを意識してくれていると感じる瞬間が何度もありました。もちろん時にはできなかったこともあります。でも、できなかったことは一人ひとりがしっかりと反省してくれています。それだけで十分です。それも含めて、皆の成長を感じられる瞬間がたまたま嬉しく、本当によい思い出となりました。生徒の皆さん、素敵な時間をありがとうございました。



東京家政大学附属女子中学校・高等学校 令和5年 年頭所感

KASEIからSEKAIへ【Always Challenging!】

今年もさらに、さらに、さらに本学は、全力で新たな時代の創造に挑戦し続けます！
 現在の世界情勢は、日本国内の世情は・・・決して安閑とした揺ったりとしたものではなく、常に激しく変化を続け、予測不能な大変革の時代を迎えております。こうした時代背景の中、全力で突き進む・・・といった厳しい状況となっております。
 厳しければ厳しいほど、本物は光り輝くのです！ 暗ければ暗いほど、小さな光でも目に留まり、人々の心に大きく響き渡るのです！ 本学は、明治14（1881）年建学、そして令和5（2023）年で142年目を迎えます。堅固な歴史と伝統に裏打ちされた、建学の精神【自主自律】生活信条【愛情・勤勉・聡明】を旗印に、人間教育の充実と学力の増進を目指し、東京家政大学附属女子中学校・高等学校はここに全力で新たな時代の創造に挑戦し続けることKASEIからSEKAIへ【Always Challenging!】を決意表明致します。



統括責任者 兼 高等学校校長
おさわ つとむ
大澤 力

中学 令和5年度 入試日程(予定)

区分	募集人員	試験日	試験科目
1回	特進 (E) CLASS	2/1(水) 午前	2科目(国語・算数・英語から2科目選択) ※英語のみ面接あり
	進学 (i) CLASS		
1回 適性検査型奨学生入試	特進 (E) CLASS	2/1(水) 午前	適性検査型 (I・II)
	進学 (i) CLASS		
2回 特別奨学生入試	特進 (E) CLASS	2/1(水) 午後	①2科目(国語・算数) ②4科目(国語・算数・社会・理科)
	進学 (i) CLASS		
3回	特進 (E) CLASS	2/2(木) 午前	①2科目(国語・算数) ②4科目(国語・算数・社会・理科)
	進学 (i) CLASS		
4回	特進 (E) CLASS	2/2(木) 午後	算数 (1科目)
	進学 (i) CLASS		
5回	特進 (E) CLASS	2/3(金) 午後	国語 (1科目)
	進学 (i) CLASS		
6回	特進 (E) CLASS	2/4(土) 午前	2科目(国語・算数)
	進学 (i) CLASS		

飛躍の年に



中学校長
たかまさ あやこ
賞雅 枝子

皆様あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。昨年コロナ感染への対応を余儀なくされた年でありました。しかし、そのような中、中高で行う代々木体育館での運動会、学園で取り組んだ緑苑祭、11月には中3のふれあいと学びの旅（沖縄）など様々な行事をこなすことができました。中3生徒は「初めての〇〇」に取り組みつつも、最上級生として企画運営に参加し、リーダーシップをとって行事をやり遂げたという思いがあったと思います。
 行事に割かれる時間とエネルギーは大きく、教師には負担もありますが、コロナ禍において生徒による主体的取り組みが少なかった日々を考えると、令和4年の生徒の成長目覚ましい様子に感激を覚えました。
 新たな年を迎え、困難な時にこそ力を発揮できる、冷静さと知恵をもった女性としてさらに成長するよう、中高の教育の充実にも励んでまいります。
 4月には、新入生を迎えることを楽しみにしております。新しい仲間とともに、新しい1ページを描きつつ、広く学び、探究し続ける態度を育て、ともに夢を語る学校として、今年さらなる飛躍を遂げるよう教職員一同邁進してまいります。



中高緑苑祭にて 中学華道部

高校 令和5年度 入試日程(予定)

区分	募集人員	試験日	試験科目	
推薦試験	特進 (E) CLASS	30名	適性検査 国語・数学・英語(リスニングなし) (3科60分)	
	特進 (E) CLASS			1/22(日)・23(月)
	進学 (i) CLASS	70名		1/22(日)
	進学 (i) CLASS	70名		1/22(日)・23(月)
一般入試	特進 (E) CLASS	30名	国語・数学・英語(リスニングあり) (各50分)	
	進学 (i) CLASS			70名

令和4年度 緑苑祭 附属中学校の様子

附属中学校では、3年ぶりに合唱祭が行われました。感染防止のため、マスクを着用しながらの合唱でしたが、日ごろの練習の成果を多くの保護者の方にご覧になっていただきました。
 また、各学年のフリースペースにおいては工夫をこらした展示発表も行いました。



附属中学校 合唱祭の様子



附属中学校展示発表の様子

令和4年度 緑苑祭 附属高等学校の様子

附属高等学校では、38団体が緑苑祭に参加しました。当日は天候に恵まれたこともあり、大勢の保護者と受験生にご来校いただき、各教室での展示や中庭ステージ・三木ホール等の催し物を見ていただきました。販売を行った団体では早々に売り切れるところもあり、盛況のうちに終えることができました。



附属高等学校 受付前で集合写真

Tokyo Kasei Press Vol.95 学校法人渡辺学園 広報誌なでしこ 2023年1月発行

Tokyo Kasei Press 広報誌なでしこ

創設時の校章に「愛を意味し、母性愛と教育愛を象徴している」撫子(なでしこ)の花がかたどられています。「平成」から「令和」になった2019年に広報誌へリニューアルし、『なでしこ』の通称名を付けました。これからの時代を「しなやかに凛と生きる」女性として社会で活躍できるよう、願いを込めて多くの情報を発信していきます。

新型コロナウイルスの影響により、本誌掲載の行事等の開催が変更・中止になる場合があります。お問い合わせは広報・宣伝部(03-3961-5690)までご連絡ください。

学生記者 募集中です！！

広報・宣伝部では学生記者を募集しています。文章を書くことが好きな方、大学生活で新しいことにチャレンジしてみたい方、一緒に広報誌なでしこを作りませんか？授業・サークル活動などに支障がない形で参加可能です。ご興味のある方は、お気軽に広報・宣伝部(03-3961-5690)もしくは koho@tokyo-kasei.ac.jp までお問い合わせください。

■発行人

菅谷 定彦(学校法人渡辺学園 理事長)

■編集責任者

岩井 絹江(広報・宣伝部 部長)

■Tokyo Kasei Press WG 編集メンバー

門脇亜希子、吉村扶見子、川島 直子、涌井 静香
坂本 理恵、原田 陽子、田中江梨子、綿貫 里穂

■編集・発行

学校法人 渡辺学園 広報・宣伝部
(10月1日より組織改訂・名称変更)
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
電話：03-3961-5690

■制作・印刷

株式会社弘文社

■表紙デザイン

坂本 理恵

■広報誌なでしこ バックナンバー



次号96号は、2023年4月発行の予定です。
掲載希望の記事がありましたら、広報・宣伝部にご連絡ください。



あけましておめでとうございます。
「コロナ禍」「ウィズコロナ」という言葉が一般化した中、少しずつ、今までとは違う、でも穏やかな日常が戻りつつある。昨年10月には緑苑祭が3年ぶりに対面で開催された。プログラムの一部はオンラインを取り入れながらの開催ではあったが、「これぞ文化祭」という活気を肌で感じる事ができたことを嬉しく思う。
世の中には相変わらずネガティブなニュースがあふれているが、身の回りのささやかな幸せを感じながら、2023年を過ごしていきたい。
なでしこ95号の制作にご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。(S.W)

今号の制作において最も印象的だったのは在学生の新井さんへの取材である。(P12-13)
目標であったアパレル企業の商品企画職の内定を見事獲得した新井さん。就職活動を経験した上での気づき、後輩たちへのアドバイスは業界・業種を問わず生かせる大事なエッセンスが詰まっており、これから就職活動に臨む在学生の皆さんにぜひ読んでもらいたい。新井さんが繰り返し伝えてくれたポイントは自分の行動や考えを「自分らしく」表現すること。
東京家政大学での4年間の学びや様々な活動を通じて磨いた「自分らしさ」を軸に、専門性を活かして活躍していく新井さんの今後の楽しみだ。(Y.H)

広報業務に携わるようになって、東京家政大学では学生を主体にとっても素敵な取り組みがたくさん行われていることに気付かされました。自分が知らない所で多くの活動が行われており、同じ学内にいてもこんなにも知らない情報があることに驚いています。
大学のことを広く皆さんに知ってもらうには、東京家政大学を好きになってくれる方を増やすことだと感じています。
どうすればより良い大学になるのか、どうすれば東京家政大学の魅力を多くの方へ伝えられるのか、そんなことを考えながら今後の広報業務に取り組みたいと思います。
95号にご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。(E.T)

何となく、今年はよい事あるごとし。
元日の、朝晴れて風無し。 石川 啄木
やるせない思いの続いた2022年でした。
今年こそ、いい年になってほしいと願って越年しました。
さかのぼりますが、2022年12月18日短大保育科の授業『保育総合表現ミュージカル“Little Princess”』を観る機会を得ました。前日まで寒風が吹いていましたが、この日はのどかな小春日和で、青空、ふわ雲、心も晴々。コロナ感染対策万全の三木ホールで、定刻の開演でした。
学生はミュージカル歌手としての出場に加え舞台装置の入れ替えをするアーティストも兼ねて、一糸乱れず。映像も駆使され、素晴らしい完成度で、すてきな笑顔。後期授業で実習・就職試験もあつた3か月のこの期間で、ここまで仕上げるのは学生もご指導の先生方も汗と涙の日々であったと思います。よく頑張りました!!!
この経験を活かし、これからの人生を力強く生きてほしい。これを読んでくださった方々に、彼女たちのエネルギーをつなげ、みんなで元気な2023年を過ごしたい。95号編集にご協力くださった皆様に御礼申し上げます。(K.I)

東京家政大学・東京家政大学短期大学部 入試情報

高校3年生・既卒生の皆様へ

■2月～3月に出願できる入試一覧

東京家政大学・東京家政大学短期大学部の一般選抜・大学入学共通テスト利用入試は2月～3月でも出願可能な入試を用意しています。

最後までチャレンジする受験生を応援しています!

*詳細は必ずホームページにて入試要項をご確認下さい。



入試種別	願書受付期間		試験日	合否発表	入学手続締切		
	開始	締切(必着)			一括	1次	2次
一般選抜	1期 (共通テスト併用型)*	2月 3日(金)	2月6日(月)	2月13日(月)	2月16日(木)	2月16日(木)	2月21日(火)
	2期 (共通テスト併用型)*	2月24日(金)	2月27日(月)	3月 4日(土)	3月 8日(水)		
大学入学共通テスト利用入試	A日程*	2月 2日(木)	大学入学共通テスト	2月13日(月)	2月16日(木)	2月16日(木)	2月21日(火)
	B日程*	3月 3日(金)		3月10日(金)	3月17日(金)		

*2023年1月14日・15日の大学入学共通テストを受験して下さい。

東京家政大学・東京家政大学短期大学部 イベント情報 体験入学

高校1・2年生の
皆様へ

体験入学で2時限受講できます

大学の授業を体験! /
60分授業を2時限受講できます。大学13学科と短大2科から、興味や関心がある学科の授業を選んでください。

板橋キャンパス 2023年 3月22日(水)

(1時限目)9:30~10:30 (2時限目)10:45~11:45

- 児童学部★ (★2023年4月開設予定)
- 栄養学部 ● 家政学部 ● 人文学部 ● 短期大学部



狭山キャンパス 2023年 3月21日(祝)

(1時限目)9:30~10:30 (2時限目)10:45~11:45

- 健康科学部 ● 子ども支援学部☆

☆2023年4月、子ども学部を子ども支援学部へ名称変更予定

授業内容や申込方法等はHPで公開予定です。HPをご確認ください。
【お問い合わせ】東京家政大学・東京家政大学短期大学部 アドミッションセンター
TEL.03-3961-5228(直通)



理事長コラム “世界を生きる”

学校法人渡辺学園理事長 菅谷定彦

日経ニューヨーク特派員時代⑭

ニューヨークの日本人(下③) 50分間のパンク走行。

河村、菅谷の逮捕劇

「アパートの設営がほぼ終わり、家内も到着したので家で夕食を」―前回のコラムで紹介した日本経済新聞ニューヨーク特派員仲間の河村君から電話。秋の気配がはじまったニューヨーク郊外、車で30分のタカホへ愛車タッジ・ダートで出向いた。河村宅の構内にある屋外駐車場に車を止めアパート玄関でベルを押し「どこに止めるのか」と聞くと、「空いているスペースに適当に」との指示に従った。

日本女子大出身で才媛の悦子夫人の心尽くしのナベ料理などをいただき愉快に3時間懇談を終え、駐車場に行くと、愛車の前面すべてと運転席の両側に新聞紙がしっかり糊付けされていた。その場所は持主がいて自分の車を駐車出来ないことに怒り狂ったのだろう。直ちに河村君に事情を伝え2人で30分近くかけてはがした。「このアパートは車で15分の高級住宅地ハーツデールの運転手など使用人が多く質が良くないので」と言い訳したが、ベトナム戦争敗北、米国内の低迷などによるアメリカ人の荒廃ぶりをかいまめた感じがした。

夜9時半ごろ自宅のクイーンズ区へ戻るべく

ハイウェイに乗って5、6分経ったところで車がガタガタと揺れだしたので、道路わきに止めて下をのぞくとタイヤ全ての空気が5分の1ほどぬかれていた。被害は新聞紙糊付けだけではなかったのだ。とっさの判断でハイウェイを降り一般道をゆっくり進む。50分ほどでタッジ・ダートを購入したマンハッタンのクライスラー販売店に横付けした。夜勤のディーラーに事情を話し修理を依頼すると「明朝までにやっておく。それにしてもこんなタイヤの状態で長時間走ってくるMr. SUGAYAは神風特攻隊員並み」と言われた。

1973年10月、第4次中東戦争の勃発に伴いエクソンなど米大手石油が石油価格の30%値上げと10%の供給制限をわが国にも通告してきた。日本を大混乱に陥れた「石油ショック」である。ニューヨークのガソリンスタンドも1回の給油が3ガロン(約11.4リットル)、日本からの客が多い時期でケネディ空港への送迎のため、私も30分待ちの長蛇の列に1日2回並んだ。しかし悪影響が長引いた日本と違いこの異常現象は数週間ではほぼ解消した。原油の大手生



米サンディエゴのトリー・パインズ・ゴルフクラブでのゴルフ会
右から菅谷、山本読売ニューヨーク支局長、岩間米国ソニー社長、関毎日ニューヨーク特派員、河村

産国で車社会の米国では政府、石油会社ともスビーディーな対応が急務だったからだ。

その年の11月下旬ごろ米国ソニーの岩間社長(前出)から米国資本進出の第1号、サンディエゴ工場がほぼ完成したので日経の菅谷さんと河村さん、読売の山本支局長、毎日の関特派員の4名に現地を視察してほしいとの要請で出かけた。工場見学、夕食会の後米国ソニーの大塚広報担当から近くのメキシコ・ティファナへ行ってみませんかと誘われ、私と河村、関の4人で2時間強ティファナを散策した。

問題の勃発はその帰途である。メキシコ入国の際には手続きナシだったのだが、米国入国には米イミグレーション・オフィス(入国管理事務所)でチェックを受ける。不法移民防止のためだが、河村はパスポートを持参していなかったため車から降ろされ税関の建物に連れていかれた。大塚さんが「この中で一番英会話の力がある菅谷さんが河村さんを助けるため同伴して」と言うので2人で入管オフィスに入った。

ところがうかつなことに私のパスポートもチェックのため短期間米国以外への旅行が禁止

される期間になっていたことが取り調べで判明。2人とも「ARREST」(逮捕)を宣言されるに至った。私は国連本部の記者証をみせながら、河村と共に新聞社の特派員で米国の日本への発信に全力を挙げており、今日もソニーのサンディエゴ工場の取材にきているなどと説明した。結果は逮捕は取り消すが、2週間後午前8時にマンハッタンのウォール街にあるニューヨーク入管事務所に出頭することを条件に10分ほど2人とも釈放された。

翌日は岩間社長、特派員陣でサンディエゴの名門コース、米フロリダのトリーナメントもしばしば開かれるトリー・パインズで事件を忘れ愉快地にゴルフを楽しんだ。

ニューヨーク税関に出頭した日のウォール街には冷たいビル風が吹きすさんでいたが、2人とも罪は軽微で始末書にサインするだけで済んだが、私は河村君に前書きしたゴルフボールの尻当てはとも角、いいかげんな駐車場指示と今回のパスポート問題は親友とはいえ許し難い。罰として私を「酒池肉林」で接待するよう求め、河村君も了解した。

1973年の年の瀬が迫ったある朝、河村君が「昼食空いてますか。私が払います」と言うので支局に近い中華料理店に出かけた。「注文もまかせて」と彼が頼んだのは小ビール一本と、北京ダック・ヤッカーク。乾杯して食べはじめたところで河村君が「菅谷さん、駐車事件に続いてティファナでは御迷惑をかけました。これがお詫びの酒池肉林です」。私は当時マンハッタンの相次いで進出した日本女性のいるクラブがピアノの接待と考えていたので思わず出したが、河村君のアイデアとユーモア精神に免じて許すことにした。

※次号は日経米州編集総局長時代①です。